リアルタイムの「つぶやき」をどのように使いますか？

国立大学法人小樽商科大学ビジネス創造センター情報資料部主任
商学部社会情報学科准教授　木　村　泰　知

1. twitterとは？

最近、新聞やニュースで「twitter」に関する記事を目にする機会が増えている。twitterは、2006年から開始されたサービスで、１回の投稿は140文字と限られており、「つぶやき」と紹介されていることも多い。twitterは「つぶやき」を通して、自分の状況を知人に伝え、友人の情報を把握することができるため、ゆるいつながりを保つことができる。また、政治家の発言は新聞やニュースよりも速く知ることができるという利点もあり、数多くの議員の方々がtwitterで意見をつぶやいている。

2. 小樽商科大学での取り組み

小樽商科大学でも、twitterを利用する人が増えている。その中の興味深いtwitterの使い方を紹介してみたい。

twitterには「ハッシュタグ」というユーザによって作られた文化がある。
ハッシュタグは「#」から始まる英数字のことであり、関連情報をまとめて検索できるのが特徴。例えば、小樽の情報を欲しい場合には、「#otaru」と検索する。

そのハッシュタグを利用して、小樽商科大学の生協は、リアルタイムの宣伝をしている。小樽商科大学では、「#otaruuniv」というハッシュタグがあり、商大生協は、そのハッシュタグを利用して、１日限定で販売に訪れる、クレープ屋さんやドーナツ屋さんを紹介している。このような「つぶやき」は、学生にとって、貴重な情報源となっている。

また、このハッシュタグは、USTREAMという動画共有サイトと連動させることができる。動画共有サイトといえば、Youtubeやニコニコ動画が有名で、録画した動画を共有するサイトとして人気がある。ただ、これは、「過去」の動画である。一方、USTREAMは、「現在」の動画を共有するサイトであり、配信する方法はパソコンだけでなく、iPhoneでも配信できるため、手軽に動画を配信する人が増えている。USTREAMは、リアルタイムに動画を配信できるため、リアルタイムのつぶやきをするtwitterと相性が良い。

５月頃、小樽商科大学の学生が中心になり「小樽ブリッジプロジェクト」というプロジェクトを立ち上げた。このプロジェクトでは、つながりのある有名人に大学へ来てもらい、講演をサポートしている。その講演では、すでにUSTREAMとtwitterを利用しており、「#otrbp」というハッシュタグを利用している。第一回講演会は５月19日に開催された。そのとき、小樽商科大学に足を運んで講演を聞いた人数は60人、そして、USTREAM経由で講演を聞いた人数は126人だった。驚いたことに、大学まで足を運んでくれた人数の２倍以上の人がインターネット経由で視聴していたことになる。

上記のように、USTREAM経由の参加人数が上回ることは、このプロジェクトに限ったことではない。小樽でも、「小樽」という知名度を利用して、小樽に興味を持っている人を巻き込んでいくのも面白い。他の地域に住んでいる協力者とゆるいつながりを維持しながら、巻き込むことを考えてみてはどうだろう。

3. twitterの問題

一方で、twitterやUSTREAMは新聞やニュースよりも、即時性が高いため、誤報や偏りのある配信になる可能性が高い。また、個人情報の問題も存在する。さらに、twitterのつぶやきには、「bot」と呼ばれるコンピュータが自動で書き込みを行うこともできるので、信用できない情報も多い。

このような問題も存在しているが、今まで知り合いになれなかった小樽在住の方々と知り合うことができているのは確かで、私自身「ゆるいつながり」を感じ始めている。いまのところ、twitterは、大学の垣根を低くし、小樽の方々の垣根も低くしてくれている。

4. 最後に

情報工学の世界は、あっと言う間に、廃れてしまう技術も多く、今回書いた話は、来年になると、陳腐化した情報になる。このように変化の激しい世界を知るには、「ちょっと疑いながらも、まず、試してみる。」という行動が必要だと考えられる。手始めに、商大生向けに、アルバイト情報などを「#otaruuniv」のハッシュタグを付けて、つぶやいてみることから、始めてみてはどうだろう。「ゆるいつながり」から「かたい絆」が生まれるかもしれない。